

平和創造

～野尻湖から辺野古へ～

金井 創 (日本基督教団佐敷教会牧師)

私は東京に暮らしていた時期、14年ほど野尻キャンプでリーダーをさせて頂きました。グリーンチャペルでの礼拝担当が主な役割のはずでしたが、いつの間にかサイクリング、アーチェリー、自然観察、ボートそれぞれの補助など、何でも屋になった感があります。新しく加わったリーダーから「金井さんは普段何をやってる人ですか？」と聞かれて、「はあ、牧師です、すみません」と、なぜか謝ってしまう、こんな会話を懐かしく思い出します。

沖縄に暮らして15年目ですが、こちらでもまる14年、辺野古新基地建設抗議運動に加わり、特に海上行動で船長をしています。いつの間にかベテランの部類になって、船舶免許を取った人が一人前の船長になれるよう指導する立場になりました。

そうやって訓練している時に「金井さんは普段何をやっている人ですか？」と聞かれることもあり、「はあ、牧師です」と答えて、「あれ？ この会話どこかでもあったなあ… あ、野尻湖だ！」と思い至って、ここでも牧師とは別のなにものかが、生活の大きな部分を占めているなあと思うのです。

そもそも私が船舶免許を取ったのは、東京在住時代、野尻湖でエンジンボートに乗るためでした。その免許が辺野古で生かされるようになるとは夢にも思っておらず、不思議なつながりを感じています。

野尻キャンプでは豊かな自然の中で、自然と人間の間の平和を、キャンプ生活やプログラムを通して人と人の間の平和を、そして礼拝を通して神と人の間の平和を大切なテーマと思って活動しました。

いま沖縄で活動する際のテーマも平和です。特に平和が著しく脅かされている現状で、平和を造り出すことは急務であるばかりか、牧師としての公務であるとも思っています。辺野古の海を埋め立てて軍事基地を作ることは、豊かな海の自然を破壊し、命を奪い、何も生み出さない戦争の拠点を作ることです。自然と人、人と人、神と人との平和を破壊する行為です。ですから基地建設に抗議するのは反対のための反対ではなく、平和を造るという目標に向かっての活動なのだ意識しています。

2014年から始まった埋め立ては、沖縄県民投票で7割を超える人々が反対したにもかかわらず止むことがありません。宜野湾市の真ん中にある普天間基地が危険だから辺野古に基地を作るのはしょうがないと政府は言います。しかし、今の計画では辺野古の滑走路が短く、移設に必要な要件を満たしていないという理由でアメリカは普天間基地を返還しないでしょう。基地がもう一つ増えるだけという結果になるのです。

埋め立てに使う土砂を県南部から採取する計画も浮上してきました。南部は20万人を超える人の命が犠牲になった沖縄戦の激戦地で、今なお多くの遺骨が埋まっています。そこは保全して慰霊追悼の場とすべきです。掘り返して、その土を基地建設のために海に投げ込むようなことをしてはなりません。生きている人間の生活だけでなく、死者の平安をも脅かすような暴挙です。

平和への脅威はそれだけではありません。奄美大島、沖縄島、宮古島、石垣島、与那国島で進められる自衛隊の増強と基地建設が追い打ちをかけています。沖縄は再び戦場になる恐れが増してきました。沖縄戦の悲惨な経験を通して得られた教訓は「基地のあるところに戦争はやって来る」でした。それはもう忘れられてしまったのでしょうか。

間もなく76回目の6月23日、沖縄慰霊の日を迎えます。真の慰霊とは戦争につながるいっさいのものを拒否することでもあると思います。まさに平和を造ることこそが慰霊であることをしっかり心に刻んで、これからも「普段は牧師」の私は、おまけの活動ではなく、本業として取り組んでいきます。